

株式情報

平成19年9月30日現在

発行可能株式総数	102,000株
発行済株式総数	25,797株
株主数	2,863名

■大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
富加津 好夫	4,665	18.08
株式会社エー・アンド・デイ	2,698	10.46
宮内 栄	790	3.06
新田 純	740	2.87
山川 陽光	505	1.96
生江 隆男	500	1.94
富加津 英夫	500	1.94

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

会社概要

平成19年9月30日現在

会社名	株式会社ホロン（HOLON CO.,LTD.）
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル3F TEL：03-3341-6431（代）
設立	昭和60年5月
資本金	5億9,079万円
代表者	富加津 好夫
従業員数	42名（兼務役員を除く）
事業内容	半導体検査装置の開発、 製造、販売、保守サービス

役員

平成19年9月30日現在

代表取締役社長	富加津 好夫
常務取締役	穴澤 紀道
取締役	崎山 武美
取締役	新田 純
取締役	松方 清彦
取締役	安宅 正志
取締役	加藤 邦彦
取締役	小林 賢一
常勤監査役	生江 隆男
監査役	有賀 益千代
監査役	三澤 順一

※監査役 有賀益千代及び三澤順一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

会社情報、IR情報は、ホームページでご覧いただけます。

<http://www.holon-ltd.co.jp/>

HOLON 株式会社 **ホロン**

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル3F
TEL：03-3341-6431（代）
(JASDAQ：7748)



この印刷物は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

Business Report

Business Report

HOLON
株式会社 **ホロン**

第23期 中間株主通信
平成19年4月1日～平成19年9月30日



代表取締役社長
富加津 好夫

ホロンのものさしはナノメートル。見えない世界を測ります。

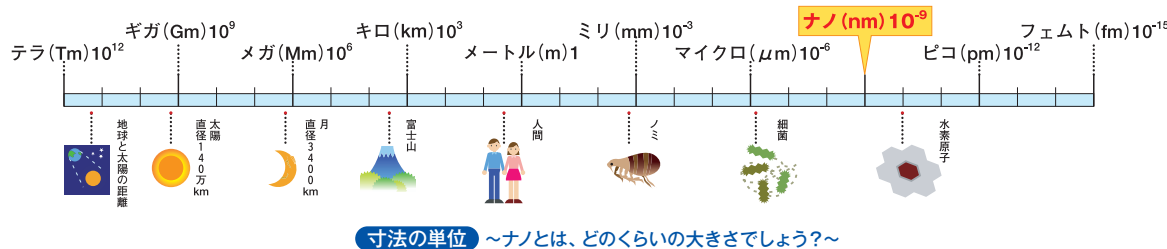
株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期における半導体産業は、その最終製品である携帯電話の飽和、薄型テレビの競合による大幅な価格下落等により、市場拡大、利益確保の難しい状況になっております。当社が参画しておりますマスクCD-SEM市場につきましても、45nmノード対応機導入の立ち上がりの遅れから、その経営環境は引き続き厳しい状況で推移しました。

しかしながら、下期からは国内のみならず米国、台湾、韓国など近隣諸国のメーカーから45nmノード対応機への要求が活発化され、当社製品の引き合いが増加すると予想しておりますので、売上拡大を目指して積極的な営業活動を実施いたします。

当社は、研究開発型企業として、電子ビーム応用システム製品を当社のコアコンピタンスと位置づけ、競合他社との競争が激化する状況の中で、最終的にユーザーは製品性能の高い装置を選択すると考え、従来になかった高性能の製品を開発して市場へ投入し、競争力を強化し、企業価値を高めて株主の皆様の期待に応えて行くよう努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



CONTENTS

株主の皆様へ	1	中間財務諸表(要旨)	5-6
業績報告・HISTORY	2	株式情報、株主メモ、会社概要、役員	裏表紙
特集 半導体とホロンの仕事	3-4		

当中間期の概況

当社の参画しております半導体産業は、その最終製品である携帯電話の飽和、薄型テレビの競合による大幅な価格下落等により、市場拡大、利益確保の難しい状況になっております。その中でDRAM専門メーカーやNANDフラッシュメモリーの大手企業などが積極的な設備投資を実施していますが、全体としては景気の牽引材料になっておりませんでした。

このような状況のもと、当社は主力製品である45nm向けマスク用寸法測定装置「EMU-270」をいち早く市場に投入し、半導体デバイスおよびマスクメーカーの評価を受けてまいりましたが、45nmノード対応機市場の立ち上がりの遅れから当中間会計期間の受注には結びつかず下期にずれ込むことになりました。

また、事業の多角化を狙うべく、シリコン半導体とは分野を別にする化合物半導体のLED素子製造向け新製品電子スタンプ「EBLITHO」は、その有効性を証明するには未だ時間を要し、ユーザーは開発試作及び量産への設備投資の前段階にあり、当中間会計期間の営業成績へ貢献いたしませんでした。

上記の結果、当中間会計期間の売上高は、前年と同様にその他の事業の保守サービス部門のみの106百万円（前年同期比0.7%増）、営業損失は181百万円（前年同期は265百万円の営業損失）、経常損失は180百万円（前年同期は260百万円の経常損失）、中間純損失は386百万円（前年同期は265百万円の中間純損失）となりました。

通期業績予想

半導体フォトリソ産業は、常に新しい技術革新を求められておりますが、当中間会計期間における半導体デバイスおよびマスクメーカーは45nm向けマスク用寸法測定装置の設備投資については評価のみに留まり、設備の導入に至っておりませんでした。

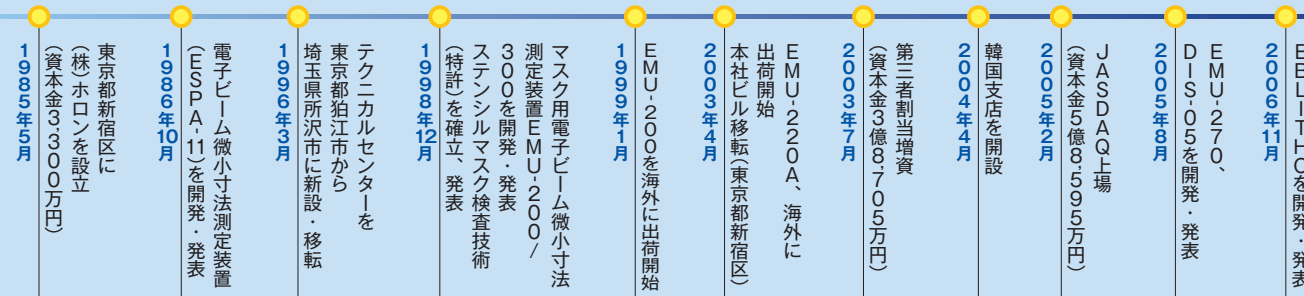
しかしながら、下期からは国内のみならず米国、台湾、韓国など近隣諸国の半導体デバイスおよびマスクメーカーから45nmノード対応機への要求が活発化されるとわれ、当社主力製品である『マスク用寸法測定CD-SEM』への引き合いも増加すると予想しており、そのための準備として「EMU-270」の大幅な性能アップを図り、高性能化・高付加価値化を実現し商品力を強化しております。

また、当社の新事業である電子ビームを使った「EBLITHO」は徐々にその有効性が証明されつつあり、下期以降の業績に貢献するものと思われませんが、装置導入時期につきましては予想通りに進展しない状況が続いております。

このような状況のもと、当中間会計期間におきましては、先行する半導体デバイスおよびマスクメーカーが寸法測定装置の技術評価を終了し発注の最終段階にきておりますので、引き続き積極的な営業活動を実施し、売上の確保をしたいと考えております。

通期の業績見直しにつきましては、受注獲得の遅れから期初の計画を見直し、売上高1,100百万円、営業利益13百万円、経常利益13百万円、当期純損失57百万円を見込んでおります。

HISTORY



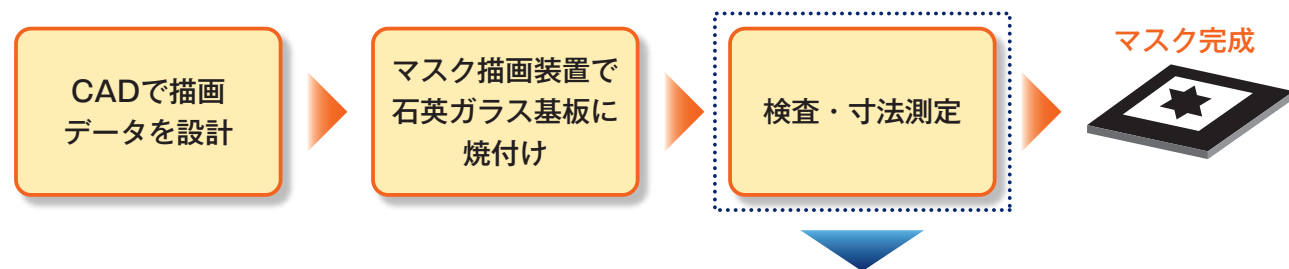
半導体とホロンの仕事

微小寸法測定装置EMU-270

当社では、小型化及び高機能・高性能が進むパソコン、携帯電話、カーナビゲーションシステム、デジタル家電などの機器に不可欠な半導体が、設計どおり作られているかどうかを検査・測定する装置を開発・製造・販売しています。今回は、半導体製造工程のなかでホロンがどのような役割を果たしているのかをご紹介します。

半導体デバイス製造の流れ（概要）

1 マスク製造工程



EMUシリーズ

マスク製造過程での検査・修正装置は、欠陥検査・欠陥修正・品質検査・寸法測定と大きく4つに分けられます。当社の装置は、マスクの回路線幅を電子ビームで測定しています。これは、現在世界で最も多く採用されているマスク寸法測定装置です。

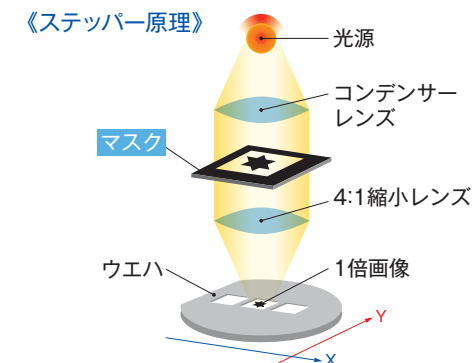


電子ビームによりマスクの寸法が設計どおりに行われているかを測定する装置

EMU-270

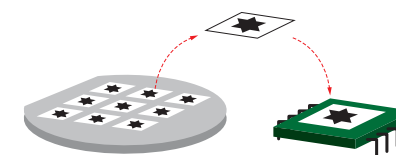
2 フォトリソ工程 ～半導体製造過程におけるマスクの役割～

製造されたマスクは、半導体デバイス工場に納入され、半導体の製造過程の中でも中核となるフォトリソ工程に使用されます。ここでは、ステッパーとよばれる装置で光をあてることによって、マスクをウエハ（シリコン製の円盤）に縮小転写させます。一枚のウエハに同じマスクの回路パターンが基盤の目状にいくつも転写され、露光やエッチングなどの処理が行われます。

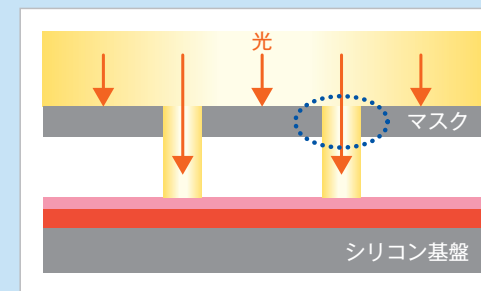


3 後工程

ウエハからダイシング・ソーで切りだされたものが、ICチップとなります。ICチップを各種パッケージに封入し、試験・検査を経て製品として完成します。



※半導体 電気を通す導体、電気を通さない絶縁体に対し、それらの中間的な性質を示す物質のこと。通常では、そのものではなく半導体を用いて作られたダイオードやトランジスタ、またそれらの集積回路であるICを指しています。ICは、様々な機器に組み込まれて大切な役割を担っています。



EMUの測定対象

当社が最も得意とするのは、電子ビームをコントロールする技術であり、今後も当社が手がける製品は、電子ビーム技術をコアとしたものになると考えております。

中間貸借対照表

単位：百万円、単位未満切捨

科 目	前中間期(第22期) 平成18年9月30日現在	当中間期(第23期) 平成19年9月30日現在	科 目	前中間期(第22期) 平成18年9月30日現在	当中間期(第23期) 平成19年9月30日現在
■ 資産の部			■ 負債の部		
流動資産	1,748	1,188	流動負債	422	175
現金及び預金	624	165	固定負債	260	241
受取手形	9	13	負債合計	682	417
売掛金	102	172	■ 純資産の部		
たな卸資産	663	649	株主資本	1,451	935
有価証券	334	180	資本金	589	590
その他	15	8	資本剰余金	532	534
貸倒引当金	△1	0	利益剰余金	330	△189
固定資産	386	163	純資産合計	1,451	935
有形固定資産	269	97	負債純資産合計	2,134	1,352
無形固定資産	52	—			
投資その他の資産	65	65			
資産合計	2,134	1,352			

中間損益計算書

単位：百万円、単位未満切捨

科 目	前中間期(第22期) 平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	当中間期(第23期) 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
売上高	105	106
売上原価	61	71
売上総利益	43	34
販売費及び一般管理費	308	216
営業損失	265	181
営業外収益	5	2
営業外費用	1	1
経常損失	260	180
特別利益	3	2
特別損失	7	206
税引前中間(当期)純損失	264	384
税金費用	0	1
中間(当期)純損失	265	386

中間キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円、単位未満切捨

科 目	前中間期(第22期) 平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	当中間期(第23期) 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△220	△176
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	64	△83
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増減額	△189	△280
現金及び現金同等物の期首残高	1,149	625
現金及び現金同等物の中間期末残高	959	345

中間株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日～平成19年9月30日まで)

単位：百万円、単位未満切捨

	株 主 資 本				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	
平成19年3月31日残高	589	533	196	1,319	1,319
中間会計期間中の変動額					
新株予約権の行使	1	1	—	2	2
中間純損失	—	—	△386	△386	△386
中間会計期間中の変動額合計	1	1	△386	△383	△383
平成19年9月30日残高	590	534	△189	935	935

新たな会計基準の導入により、貸借対照表中「純資産の部」における異動を分かり易く開示するため、新しい財務諸表として株主資本等変動計算書を掲載しております。